

第5学年 国語科学習指導案

日時 7月4日(火) 第6校時
学級 第5学年1組 30名
指導者 川島 幹雄

1 単元名 伝記を読んで自分の生き方について考えよう
教材名 「百年後のふるさとを守る」

2 単元の目標

- ・人物の生き方や考え方と自分自身の経験や考え方を重ねながら読み、これからの自分の生き方について考えようとすることができる。 【関心・意欲・態度】
- ・「人物の生き方(決断や行動)」と「自分の経験や考え方(自分ならどうするだろうか)」を比較しながら読み、これからの自分の生き方について意見を交流しながら、考えを広げたり深めたりすることができる。 【読むこと(1)オ】
- ・出来事や人物の行動場面と筆者の考えが述べられている場面に分かれて文章が構成されていることを理解することができる。 【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項(1)イ(キ)】

3 教材の特性

本教材は、ふるさとの将来を考えて決断し行動した浜口儀兵衛の生き方が伝記として表現された作品である。儀兵衛の生き方や考え方と自分自身の経験や考え方を重ねながら読み進めることによって、これまでの自分を見つめどう生きていくかを考え表現する力を身に付けさせたい。

なお、第三次では、こうした読みの力を生かして自分が選んだ他の人物の伝記を読み、「自分はこうありたい」とする生き方を伝え合う機会を言語活動の一つとして設定する。

4 研究主題との関連

(1) 目指す児童像(国語の目標及び研究主題より)

- 【心】共感的な態度で、互いの思いを主体的に伝え合おうとする子
- 【心】筆者や友達からの多様な考えをもとに、自分の考えを広げたり深めたりする子

(2) 研究主題(児童像)に迫るための手だて

【心】共感的な態度で、互いの思いを主体的に伝え合えるようにするために

○共感的な態度を重視した話し合い活動

効果的な学び合いが成立するためには、他者の意見を主体的に聞き入れようとする支持的風土と共感的な態度が大切になる。話し手に視線を向けたり内容を理解しながら頷いたりする態度、「それから?」「詳しく教えて」と言った言葉掛けや感想を交えて話をつなげていく技能を日々の学習の中で身に付け、自他を尊重した学び合い活動を実現していく。

○主体的に伝え合う小集団活動の工夫

考え方や根拠が異なる児童同士で小集団を構成すると、様々な意見の違いに触れることができる。新たなことに気付いたり、自分の思考が広がっていったりすると、児童は喜びを感じて、話し合いはますます主体的に展開されていくものと考えられる。

【心】多様な考えから、自分の考えを広げ深めるために

○小集団活動(ペア学習や小グループ学習)後の個人の学びを深める時間の保障

小集団活動を通して、児童は教材や友達の意見・感想などから多くの知識と情報を収集することができる。そうした知識や情報をどのように個人の深い学びへとつなげていけばよいのか、その手順を児童に示す。

①友達と自分の考えや感想を比較する。

②友達との相違点の中で、共感できるところや新たな気付き・発見につながる考えに着目する。

③着目した考えと自分がもっている考えと関係付けて、自分の核となる考えを明らかにする。

このように、一度広がった思考を整理し、自分の判断で最終的な考えにまとめ上げていくには、個人で思考するための時間を確実に保障する必要がある。また、自分の考えの支えとなったのがどんな情報であったのか、誰のどんな意見であったのかを振り返る活動を、授業の終末に行う。

5 指導計画・評価計画(11時間)

次	時	学 習 活 動	○指導内容	●評価
第一次	1	<p style="text-align: center; border: 1px solid black;">学習課題を知り、学習計画の見直しをもとう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝記を紹介し、「好きな伝記を読み、自分の生き方について考える」という学習課題を立て、学習活動への見直しをもつ。 ・浜口儀兵衛について知り、その生き方について感想を交流する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「杉原千畝」の伝記をもとに、担任がこれからの自分の生き方についての考えを伝え、学習活動への意欲を高める。 ○教材文にある人物の生き方が伝わるように範読する。 ●伝記を読み、自分の生き方について考えようとしている。 	
	2	<p style="text-align: center; border: 1px solid black;">「百年後のふるさとを守る」を読み、自分の生き方について考えよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝記(教材文)の大段落1～4の相互関係をとらえ、全体の文章構成をつかむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○全体の文章構成をつかませる。 <ul style="list-style-type: none"> ・大段落1→話題提示「稲村の火」の説明 ・大段落2→本論1 浜口儀兵衛の紹介 津波発生時の行動 ・大段落3→本論2 村を再生しようと努力する儀兵衛の行動 ・大段落4→結論 儀兵衛の生き方に対する筆者の考えとまとめ ●伝記全体の文章構成の特徴をとらえることができる。 	
第二次	3	<ul style="list-style-type: none"> ・大津波から村人や村を救おうとした儀兵衛の気持ちや行動をつかみ年表に整理する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○起こった出来事に沿って儀兵衛の言葉や行動を読み取り、生き方・考え方を時系列で捉えさせる。 ●出来事に沿って儀兵衛の思いや行動を読み、その生き方について感想をもつことができる。 	
	4	<ul style="list-style-type: none"> ・浜口儀兵衛の優れた功績とは何かを考え、整理する。 ①大津波のとき、積みわらに火をつけ村人たちの命を救ったこと。 ②村人たちのために米や衣服を買い仮小屋を建てたこと。 ③材料費や賃金を出して村人の手で大堤防を造る計画を立てたこと。 ④大地震で江戸の店を閉じた後も堤防工事を続けると決断し、完成させたこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ○年表をもとに浜口儀兵衛が村人や村のためにしたことを振り返らせる。 ○儀兵衛がそうした行動に出たのはどんな思いや考えがあったからなのかを想像させる。 ●浜口儀兵衛の優れた功績とは何かを理由を含めて考えることができる。 	
	6	<p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">・浜口儀兵衛の一番の功績とは何か、またその理由について考える。(小集団活動)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○儀兵衛の功績について友達と意見交換し、一人一人の功績に対する考え方の違いに気付かせる。 ○儀兵衛の強い思いや決断が人々の心を動かし、それが功績へとつながっていることを踏まえて、自分の考えを決定するよう助言する。 ●自分にとって何が儀兵衛の一番の功績であるか、その根拠をもって決定することができる。 	
	7	<p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">・浜口儀兵衛の生き方から自分が学ぶべきことは何かを考える。(小集団活動) (本時)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の生き方が見つめられるようにするために、以下のことを指導する。 <ul style="list-style-type: none"> ・浜口儀兵衛はどんな思いや考えがあって行動したのか。 ・儀兵衛のそうした思いや考え方は、これまでの生活場面(経験)と、どのように重ねることができるか。 ・儀兵衛の生き方から何を学び、どのように生かしていこうと考えるか。 ○儀兵衛の生き方(功績)から学べることを意見交流し「自分はこうありたい」とする生き方へとつなげられるようにする。 ●儀兵衛の生き方とこれまでの自分を重ね、自分の生き方について考えることができる。 	
	8	<ul style="list-style-type: none"> ・儀兵衛の生き方と重ねて考えた自分の生き方を文章にまとめ、伝え合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○文章のまとめ方について指導する。 <ul style="list-style-type: none"> ①儀兵衛の功績や生き方を紹介する。 ②一番の功績であると思ったことやその理由を書く。 ③過去の経験を振り返り、どんなことを人物から学んだのか、またこれからの自分はどうかありたいと考えるのかまとめる。 ●儀兵衛の生き方から学んだことをもとに、自分の生き方について考え 	

			たことを文章にまとめることができる。
第三次	9	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">他の人物の伝記を読んで、自分の生き方について考えよう</div> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの経験を重ねながら自分が選んだ伝記を読む。 	<ul style="list-style-type: none"> ○これまでの学習を生かして人物の生き方や功績を整理し、自分が学ぶべきことは何かを考えさせる。 ●人物の生き方から学べることを整理し、自分の生き方について考えることができる。
	10	<ul style="list-style-type: none"> ・感銘を受けた人物の伝記から自分の生き方について考え、文章にまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○第8時で身に付けた文章構成に基づいて、自分の生き方について考えたことを文章にまとめさせる。 ●自分の生活に生かそうと思ったことや「自分はこうありたい」と考えたことを、自分の生き方として文章に表すことができる。
	11	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の生き方についてまとめた考えを発表し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ●自分の生き方について互いに伝え合い、自分を見つめながら考えを広げたり深めたりすることができる。

6 本時の学習(7/11時間)

(1)ねらい

浜口儀兵衛の生き方とこれまでの自分の経験(生活場面)を重ね、儀兵衛の生き方から自分がどんなことを学べるのかを考
えることができる。

【 思考力・判断力・表現力 主体性 多様な考え 自律性・社会性 対応力(場・相手) 思いやりの心 思考の深まり 】

(2)展開

主な学習活動	○指導上の留意点 ●評価
<p>1 杉原千畝の伝記をもとに、担任が自分の生き方について学んだ経緯についての説明を聞く。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: 80%;"> 浜口儀兵衛の行動や考え方(生き方)から自分が学べることはどんなことだろう </div>	<p>○ 第1時に担任が児童に提示した言語活動例をもとに、本時の学び方・学習の進め方を確認させる。</p>
<p>2 浜口儀兵衛の生き方から学べることは何かを考え、ノートに整理する。</p>	<p>○ 自分の生き方を見つめ、学びへとつなげられるよう、考え方の手順を伝える。 ①儀兵衛の思いや考え方、そして行動(生き方)は、これまでのどんな経験と重ねることができるのかを自分に投げ掛ける。 ②儀兵衛の生き方から自分が学べることはどんなことかを整理する。「自分はこうありたい、こうなりたい」</p>
<p>3 浜口儀兵衛の生き方から、自分はどんなことが学べると思うか意見を交流する。 一人ずつ自分の考えを述べ、そのことについて感想を伝える。 (小集団活動)</p>	<p>○ よい話し合いができるよう、以下のことを指導する。 ・友達意見を主体的に聞き入れ、共感的な態度で学び合うこと。 ・友達の意見を聞いてどう思ったのか、自分ならどのように考えるかを伝えること。</p>
<div style="border: 1px dashed black; padding: 10px;"> <p style="text-align: center;">〈話の組み立て方の例〉</p> <p>①自分に影響を与えた儀兵衛の生き方とは何か。 (私の心に残っているのは、儀兵衛が～したことでした。)</p> <p>②その理由はどのようなことか。 (それはどうしてかという、～だからです。)</p> <p>③これまでの自分の経験の中で、どんなことと重なるか。 (これまでの私は、～なところがありました。)</p> <p>④儀兵衛の生き方から学んだことは何か。 (だから、私は～な自分になりたいと考えています。)</p> </div>	<div style="border: 1px dashed black; padding: 10px;"> <p style="text-align: center;">〈意見交流の時の話型の例〉</p> <p>・選んだ儀兵衛の行動(生き方)は同じだけど、学んだことには違いがあるね。</p> <p>・〇〇さんの学んだことは自分とは違うけれど、～なところがとても共感できます。 (その理由)</p> <p>・もし、私だったら～な自分でありたいと考えるかもしれない。</p> </div>
<p>4 全体交流を通して、自分の考えを深める。</p>	<p>○ 前に発言した友達の考えや理由に対して、自分の感想を伝えてから自分の考えを伝えるようにする。 ○ 意見交流を経て、自分の考えや理由が変わったときは、改めてその考えを伝えるようにする。</p>
<p>5 浜口儀兵衛の生き方から学んだことを明らかにして、最終的な自分の考えをまとめる。</p>	<p>● 儀兵衛の生き方とこれまでの自分を重ね、自分の生き方について考えることができる。</p>
<p>6 本日の学習を振り返る。 (学習の振り返り方の例) ・私(ぼく)が、自分の考えを決定するのに参考になったのは〇〇さんの～という意見です。それは～だからです。</p>	

第5学年 国語科学習指導案

日時 7月4日(火) 第5校時
学級 第5学年2組 31名
指導者 中原 里美

- 1 単元名 事実と考えを区別して、活動を報告する文章を書こう
教材名 次への一歩 活動報告書

2 単元の目標

- ・委員会活動を振り返り、今後をよりよくするために活動報告書を書こうとすることができる。【関心・意欲・態度】
- ・目的や意図に応じて収集した事柄を、全体を見通して整理することができる。【書くこと(1)ア】
- ・文章全体の構成の効果を考え、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに表現の効果などについて工夫して活動報告書を書くことができる。【書くこと(1)オ】
- ・活動報告書の構成を理解することができる。【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項(1)イ(キ)】

3 教材の特性

本単元では、5年生になって取り組み始めた「委員会活動」の報告書を書く。学校を支える「委員会活動」であるため、責任をもって活動に取り組んでいる児童が多い。活動を始めて約3ヶ月がたつ。今までの活動を振り返ると、うまくいったことや課題になることが出てくる時期であろう。一年間同じ委員会に所属し、活動を続けるため、自分自身や委員会全体の活動を振り返り、見直し、委員会の活動報告書を書くことで今後の活動に生かせるようにしたい。

活動報告書を書く際には、報告書の型を理解し、「活動の計画－実行(報告)－考察」を構成の骨組みとする文章を書く。特に、実行(報告)と考察を分けて記述できる力をつけていく。事実と感想を区別して、表現の仕方を使い分けることは、高学年で身に付けさせたい力の一つである。文末表現に注意させ、活動経過については事実の記述、成果や今後の活動については意見や感想の記述が中心になることを理解させる。また、読みやすい活動報告書の構成には、見出しや小見出しが大きな役目を果たす。内容に合った短い言葉を考え、見出しを立てることにより、読み手にとって、より読みやすい活動報告書になることにも気付かせる。

4 研究主題との関連

(1) 目指す児童像(国語の目標及び研究主題より)

- | |
|------------------------------------------|
| 【心】友達との関わりの中で、自他の違いやよさを認め合い、互いに高め合おうとする子 |
| 【心】多様な意見のもとで自分の考えを深め、豊かな言葉で表現する子 |

(2) 研究主題(児童像)に迫るための手だて

【心】「友達との関わりの中で、自他の違いやよさを認め合い、互いに高め合おうとする子」を育てるために

○効果的な交流のできる小集団活動の工夫

委員会活動の報告書を作成していく過程で、二種類の小集団での話し合いを設定する。一つめは、同じ委員会に所属する児童で構成した小集団である。同じ委員会に所属し、同じ仕事をしているため、構成や下書きの段階でお互いの気付かなかったところをアドバイスし合うことができる。そのアドバイスを取り入れることで、報告書の下書きを仕上げる。二つめは、異なる委員会に所属する児童で構成した小集団である。異なる委員会の小集団活動で、助言し合って推敲することで、自分の書いた報告書に対して、どんな内容の仕事をしているのかあまり知らない友達からの客観的なアドバイスや疑問、意見をもらうことができると考えた。また、お互いの委員会活動の報告書を読み合うことで、お互いの頑張りや認め合い、それぞれの委員会が学校を支えるために努力していることに気づき、またよりよい活動を目指そうとすることができる。

【心】「多様な意見のもとで自分の考えを深め、豊かな言葉で表現する子」を育てるために

○提示資料やワークシートの工夫

活動報告書を書くにあたって、実行(報告)の事実と考察の感想や考えを区別して述べる書き方を使えるように、事実、感想や意見を述べる際の文末表現を提示する。また、推敲の仕方が分かるように、報告書のモデル文を使って全体で助言の仕方を確認したり、推敲の視点を明確化した「推敲シート」を手元に持たせたりすることで、友達の活動報告書を的確に推敲できるようにさせる。友達からの助言をもらった後、改めて自身の活動報告書を、提示資料や「推敲シート」をもとにして、よりよい活動報告書に仕上がるように見直す時間を設定する。書き手の表現の仕方をよりよくするために、という視点で一人では考えつかなかった言葉が、提示資料、推敲シート、友達からの助言により活動報告書に反映できる。

6 本時の学習（8／10時間）

(1) ねらい

- ・友達の活動報告書を読み合い、お互いに助言して推敲することができる。

【思考力判断力表現力 主体性 **多様な考え** 自律性社会性 対応力(場相手) 思いやりの心 **思考の深まり**】

(2) 展開

主な学習活動	○指導上の留意点 ●評価
<p>1 前時までの学習を振り返る。</p> <p>2 本時の学習課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>お互いに助言し合って、活動報告書を推敲しよう。</p> </div>	<p>○指導上の留意点 ●評価</p> <p>○学習計画表で確認できるようにしておく。</p>
<p>3 推敲の仕方を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>4 助言し合って、推敲する。（小集団）</p> <p>○下書きを3人（1組のみ4人）の異なる委員会グループごとに分かれて読み合い、助言する。</p> <p>○推敲シートをもとにして、助言を付箋に書き、友達の活動報告書の下書きに貼り付ける。</p> <p>○付箋をつけた箇所について言葉で説明する。 桃色付箋・・・良い点について 青色付箋・・・改善点、質問等について</p> </div>	<p>○モデル文を使い、全体で助言の仕方を確認する。</p> <p>○推敲シートをもとに、「内容」と「表記」の項目から良い点や改善点、質問等を付箋に書かせるようにする。</p> <p>○書き手にとって、より良い活動報告書にするために推敲することを伝える。</p> <p>○助言の仕方</p> <p>①一人目の報告書を読み、付箋を貼る。（5分） ②二人目の報告書を読み、付箋を貼る。（5分） ③Aさんの報告書について言葉でアドバイスする。（3分） ④Bさんの報告書について言葉でアドバイスする。（3分） ⑤Cさんの報告書について言葉でアドバイスする。（3分）</p> <p>○報告書を読み付箋に書く時間と、友達に説明する時間を分ける。</p> <p>・友達の報告書の良いところや改善点、質問等を探し、話し合いができていないか机間指導して助言する。</p> <p>●下書きを読み合い、助言している。（付箋、発言）</p>
<p>5 助言された付箋をもとに、自分の下書きを推敲する。</p> <p>6 どのような推敲をしたか、発表する。</p> <p>7 本時を振り返り、一言感想を学習計画表に書く。</p> <p>8 次時の予告をする。</p>	<p>○友達と話し合ったことを生かし、書き直した方が良い部分は直させる。付箋は貼ったままにし、直した箇所の付箋には○印をつけるなどして、漏れがないようにさせる。</p> <p>○直す箇所は、赤鉛筆で書き加え、変わったところをはっきりさせる。</p> <p>●自分の書いた下書きを推敲している。（報告書ワークシート）</p> <p>●全体で見合うことで、推敲をしてより良い活動報告書になったことに気付かせる。</p> <p>○本時の学習を振り返る。</p> <p>○次時への意欲を高められるように声かけする。</p>

次	時	主な学習活動	○指導内容 ●評価
第一次	1	<ul style="list-style-type: none"> ・活動報告書とは何か知る。 ・活動報告書を書く目的について話し合う。 ・委員会活動について、活動報告書を書くことを知る。 ・4月～6月の委員会活動を振り返る。 ・単元の学習課題を設定し、次時以降の見通しをもつ。 	<p>○委員会活動について、活動報告書を書くことを知り、活動報告書を書くことに意義をもたせる。</p> <p>●活動報告書を書く目的を理解し、活動報告書を書くことに意欲をもっている。</p>
		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 委員会の活動報告書を書き、今後の活動に生かそう。 </div>	
第二次	2	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の例を読み、報告書の書き方を知る。 ・事実と考えの違いを確かめる。 	<p>○活動報告書の構成をつかませる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動計画 ・活動内容 ・活動して考えたこと ・今後の活動について <p>○見出しごとにどんな内容が書かれているか確かめる。</p> <p>●活動報告書の構成に気付き、活動報告書に必要な構成と内容について考えている。</p>
	3	<ul style="list-style-type: none"> ・活動報告書の書き表し方の工夫を見つける。 ・文末表現の違いを確かめる。 	<p>○自分の活動報告書に生かしたい表現の工夫について考えさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・箇条書き ・短い文で表している ・具体的な日数を入れている ・取材時の様子を詳しく書いている ・活動内容 <ul style="list-style-type: none"> －事実・・・「～をした。」 「～があった。」 ・活動して考えたこと <ul style="list-style-type: none"> －感想・考え・・・「～と思う。」 「～たい。」 <p>●活動報告書を書くための表現の工夫を見つけている。</p>
	4	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・活動報告書を書くための材料を集め、整理する。 <p style="text-align: center;">（小集団活動）</p> </div>	<p>○これまでの委員会活動を振り返り、報告書に書くためにどんな活動をしてきたか、ワークシートにメモさせる。</p> <p>○同じ委員会の友達と話し合い、活動計画や活動内容を確かめさせる。</p> <p>●活動を振り返り、報告をするのに必要な内容を集めて、整理している。</p>
	5	<ul style="list-style-type: none"> ・報告する活動内容を決め、活動報告書の構成メモを作る。 ・どんな見出しをつけるか考える。 	<p>○活動内容（事実）と活動して考えたこと（考え）を分けて書けるように、付箋紙の色を分けて書かせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動内容・・・青色付箋 ・活動して考えたこと・・・黄色付箋 <p>○今後の活動については、続けて取り組むことやつなげていきたいこと、うまくいかなかったこと、改善点を書かせる。</p> <p>●見出しや書く順序を考えながら、活動報告書の構成メモを作っている。</p>

	6 ・ 7	・構成メモをもとに、活動報告書の下書きを書く。	○文章全体の構成の効果を考え、事実と考えを区別して、下書きを書かせる。 ・表現の工夫 ・横書きのしかた ①「、」は「,」で表す。 ②数字は、1, 2, 3で表す。 ③一つ、二つや二日、三日などは漢数字で表す。 ●文章全体の構成の効果を考えて書いたり、事実と感想・意見を区別して書いたりしている。
第三次	8 本時	・お互いに助言し合って、活動報告書を推敲する。 (小集団活動)	○推敲シート(内容・表記)をもとに、推敲の仕方を確認させる。 ・良い点について ・改善点について ○異なる委員会の友達と助言し合って、推敲させる。 ●これまでの学習の観点に沿って下書きを推敲し、活動報告書を見直したり、グループの中で意見を言ったりしている。
	9	・観点に沿って推敲し、清書する。	○前時のグループでの推敲をもとに、活動報告書を清書させる。 ●よりよい活動報告書になるように丁寧に清書している。
	10	・活動報告書を読んで交流し、学習をまとめる。	○活動報告書を読み、感想などを書いて交流させる。 ○友達の頑張りを認める感想を書けるようにする。 ○一人一人の頑張りによって、学校全体が支えられていることに気付かせ、今後の活動へ意欲付ける。 ●友達が書いた活動報告書のよさを見付け、交流している。

プロジェクトアドベンチャーや様々な話し合いツールを活用した学級づくり

中央区立久松小学校 5年3組 水上 美穂子

5年3組の担任となった4月。素直で優しい子どもたちであるが、学級編成替えがあったばかりであるので、「高学年になった」という喜びと不安が混じった表情をしていた。

そのような雰囲気の中、子どもたち一人一人が学級の一人としてかけがえのない存在であること、その学級にいることの価値や学級のために自分ができることを考えられる学級にしたいと考えた。

そこで、今まで続けてきた様々な学級活動 活動内容(1)(2)に加えて、「プロジェクト、アドベンチャー(P・A)の活動を通して、子どもたちが主体的に活動し、話し合っ

て学級をつくっていく1年間にすることにした。

(幸いにも、4年生の宿泊学習でロープスコースを体験している。)

活動① P・Aを行うにあたって、学級での約束事を決めた。

- ・参加すること。
- ・ルールを守ること。
- ・一生懸命やること。
- ・楽しむこと。
- ・安全に気を付けること。

活動② 始めにふさわしい意図的な活動を取り入れる。

「YES、AND コミュニケーション」

会話のよい例と悪い例をあげ、教師が悪い言い方を示して、その後相手の子に気持ちを聞く。友達と会話をする時は、相手が何かを話したら、必ず

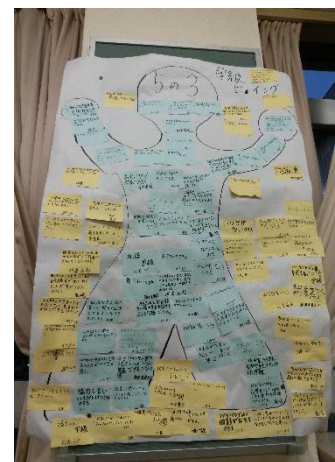
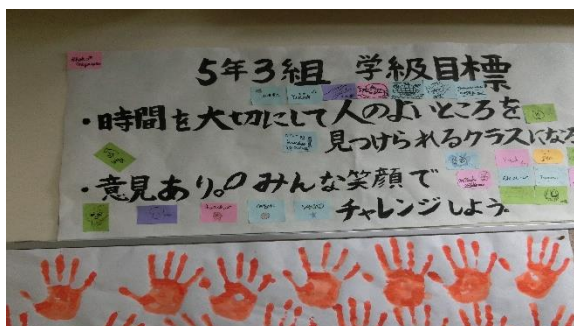
「いいね。そうだよね。なるほど。そうなんだ。確かに。」

などと話すことにする。

このことにより、小集団で勇気を出して意見を言ったとき、自分の意見をほめられて自信がつく。

活動③ 学級目標を決める。(5月末)

- ・どんな学級にしたいか、文章に書いて発表する。(小集団)
- ・学級ビーイングをして、こんな学級がいい。こんな学級はいやだな。という内容を付箋に書き、発表する。(この時、教室の床に座って話合うと、一体化して盛り上がる。)
- ・小集団で、学級目標のキーワードを出し合う。
- ・学級目標の文章を書いて、発表をする。
- ・代表者で話し合い、案を出して学級で修正の上決定する。



- ・決まった目標は、P. Aをやるときに必ず行う振り返りの時の視点にする。

活動④ 4月に行ったもう一つの活動

サークルアップ

ばらばらなところにいる子どもたちに一つの円になるように話す。

時間は5分。教師は何も言わない。

しばらくすると、自然に誰かがリーダーになる。そして3分ほどで円ができた。「みんなはどこをみていたの？」

と聞くと、「円の外側」「みんなの顔」などと話す。結構、人のことはいろいろ言っているが、以外に自分のことは見ていないかもと話している子どもがいた。

活動⑤ 議題ポストから出た議題で、

「5年初めの集会をやろう」の話合い

司会班1班が計画委員会を行い、学級会が開かれた。4年生の経験を生かして、自分たちの力で学級会を進めることができたが、終盤、友達を批判したり、強く反対したりする子どもがいたので、指導をした。反対する時は「YES、AND コミュニケーション」を思い出すことや言い方に気を付けることを確認。

結果、「ドッジボールと宝さがし」に決定し3日後に行われた。

その後の振り返りでは、

- ・計画係がよく説明してくれて楽しかった。
- ・ルールを守らない人がいるので、考えてほしい。
- ・普段遊ばない人と活動できて、楽しかった。

などの意見が出た。

活動⑥ 学級の係について

学級では、学期始めに決める一人一役当番と、学級をよくするためのプロジェクトチームの二つをもって活動している。とくにプロジェクトは、学級目標が決まってから、ワールドカフェという話合いの手法を使い、決定した。

5の3 1学期プロジェクト

- ① 情報プロジェクト
- ② 声かけプロジェクト
- ③ アニマルプロジェクト
- ④ 楽しませプロジェクト
- ⑤ 給食プロジェクト
- ⑥ I LOVE BOOKS プロジェクト

と決定し、活動は活発に行っている。

活動⑦ スポーツアワー（朝10分）

スポーツの種目を言うと、その参加人数に合わせて集まるゲーム。余りは出さず、足りない、多い場合は理由を述べる。

- ・予定していた人が風邪で欠席です。
- ・お母さんが参加したいと言っています。等

活動⑧ ネームトス（帰り10分）

カードに自分が呼ばれたいあだ名を書く。

グループに分かれて、あだ名を公表する。ボールを一つもち、ゆっくり投げてキャッチしてほしい人のあだ名を呼ぶ。その繰り返し。

活動⑨ 難破船

全員で合意形成をするアクティビティ。じっくり話し合っ、課題にそって決定する。航海のトラブルで難破船になってしまった、自分たちの船。持ち物リストの中から、何をもっていくかを話し合う。安心して話し合う場をつくっていくことが重要となる。

かなり長く話し合っ、決定していた。様々な理由から自分の意見が受け入れられたことはうれしかったと振り返りで話していた。様々な形をとりながらも、少しずつ相手を認めることが出来てきて、他の活動や教科にも生きている。

持ち物リスト(個人用) 名前

持ち物	①	2	3	持っていく理由	7
1. ラジオ					
2. トランプ					
3. ロープ(20m)					
4. ちうそく(10本)					
5. 時計					
6. 白米(100kg)					
7. おの					
8. 本(100さつ)					
9. けいたい電話					
10. お金(1種円)					
11. そうがんきよう					
12. 大豆(100kg)					
13. 水(100L)					
14. くつ(人数分)					
15. 毛布(人数分)					
16. 虫よけスプレー					
17. サッカーボール					
18. 打ち上げ花火(10本)					
19. お酒					
20. 思い出のアルバム					
21. さいほう道具					
22. ボリタンク(10個)					
23. 洗面セット(歯みがき、石けん、シャンプー)					
24. ゲーム					
25. かいちゆう機					
26. 水巾着					
27. 100円ライター					

※ 人数がないものはすべて1個 ※ 1、2、3、7 は、すべて複数つ

話し合う前の今の所持ちは？

活動⑩

他教科との関連から話し合いの手法を取り入れて学習した

方法

その1 「社会」 4年生の振り返り

(ブレスト会議)

ホワイトボードに自分の住んでみたい県をたくさん書き友達に紹介し、できれば班として一つに決めて発表する。

その2 運動会のためについて(代表委員会からの提案)

ホワイトボードミーティング

運動会のためには、どんな言葉があったらいいか、いくつか個人で出し、それぞれのよいところを認めて、話し合う。十分話し合ったうえで、全体にあげる。

ホワイトボードは消せて、楽しみながら話し、便利に使っている。

その3 国語 千年の釘にいどむ

ホワイトボードを使って、白鷹さんの職人としてのすごさについて書き、班でまとめて発表する。たくさんの付箋を用意して、思ったことをたくさん書き、その中から3つ選んで、小集団では発表し、いくつかをまとめて全体で共有する。

これらの活動はかならずしも1単位時間でやっていることわけではない。朝10分で活動したり、帰りの会の前で行ったりする。グループは突然新しく始まるので、うまくいかないことも多くあるが、この活動を思いっきり取り組む気持ちがみんなにあれば、だれが一緒でも楽しくできる。

必ず行うのは振り返りである。その中で、認め合い、話し合いの進め方のよさを発表できれば、少しずつよい集団のような気持ちを持ち始めるのである。

学級経営は、初めはうまくいかなくて当たり前くらい思って、でもいつも熱い思いは絶やさず持ち続けたい。そして、あきらめずに決めたことを続けることに意味がある。そうしているうちに、必ず子どもたちから、「こうしたい。」「ああしたい。」と意見が出てきて、さらに楽しくなる。

教師はファシリテーターとしての技術を学び、こどものよい学びをどんどん引き出していきたい。

第5学年 算数科学習指導案

日時 7月4日(火) 第5校時
第5学年 習熟度別少人数クラス
算数教室1 18名
指導者 上原 佳織

1 単元名 「合同な図形」

2 単元の目標

関心・意欲・態度	合同という観点で、図形の性質を見直したり、対角線に着目してできる図形をとらえたりして、学習に生かそうとすることができる。
数学的な考え方	合同という観点から、図形の形や大きさを決める要素について考え、図形の性質としてまとめたり統合的にとらえたりすることができる。
技能	必要な辺の長さや角の大きさを用いて、合同な図形を弁別したりかいたりすることができる。
知識・理解	図形の合同の意味や合同な図形の性質について理解することができる。

3 本単元について

本単元は、図形の合同の意味や性質を理解し、合同な図形をかくことを通して、基本的な平面図形について理解を深めることをねらいとしている。児童はこれまで平面図形について、第3学年では三角形、二等辺三角形と正三角形の定義、性質や作図について学習してきた。また、角については2本の半直線がつくる平面図形としての角を定義し、2つの辺の開き具合によって形が違うなど、基本的な図形の観察に関連して、形としての角の概念について基本的なことを学習してきた。第4学年では、形としての角の見方から一歩進めて、回転による半直線の開きの量としての角を扱っている。また、四角形については、台形、平行四辺形、ひし形などの定義、性質や作図についても学習してきた。

本時で扱う三角形の作図については、第3学年において二等辺三角形、正三角形を扱った。この段階では、角の大きさは未習であるため、「3つの辺」より作図した。その後、第4学年において角の大きさを学習した後、「1つの辺とその両端の角」より三角形を作図している。これからの学習を適宜想起させながら、合同な図形の作図に必要な要素について考えていく。

4 研究主題との関連

(1) 目指す児童像（算数の目標及び研究主題より）

- 【心】友達と互いの考えを伝え合うことを楽しみ、さらに自分の考えを深めていこうとする子
- 【心】既習事項をもとに、主体的に問題を解決しようとする子

(2) 研究主題（児童像）に迫るための手だて

【心】友達と互いの考えを伝え合うことを楽しみ、さらに自分の考えを深めていけるようにするために

○小集団活動

1回目の小集団での話し合いは、合同な三角形の作図方法の見通しをもつことを目的としている。ペアで、これから各自が作図をする方法について検討することで、自信をもって作図の学習活動に取り組むことができるようにする。2回目の小集団での話し合いでは、1回目の話し合いのペアとは違う児童と3人組になって話し合いをする。それぞれが別の要素を使って作図をしてきているので、互いの作図の要素を持ち寄ることになる。自分の作図の要素と、友達の作図の要素を比べて、共通点や相違点を見出すことで、合同な三角形を作図するための要素について整理していく。友達との小集団活動を通して、自分だけでは浮かばなかった作図の要素を気付くことで、自らの考えの深まりを実感できると考える。

【心】既習事項をもとに、主体的に問題を解決しようするために

○ツールの活用

作図の見通しをもつために、辺や角を表したマグネットを配布する。既習学習の「1つの辺とその両端の角」を使った作図をもとに、他の辺や角を使った作図方法も考えていく。互いの作図に使用した辺や角を伝え合う際も使用できることから、マグネットを使用することで、どの子も主体的に学習活動に参加し、問題解決に向かうことができると考える。

単元指導計画・評価計画

時	目標	学習活動	おもな評価規準
1	「合同」の意味について理解する。	<ul style="list-style-type: none"> 与えられた三角形、四角形と形も大きさも同じ図形を見つける。 用語「合同」の意味を知る。 四角形を裏返して重ね合わせることができるかどうかを調べる。 身の回りで合同な形をしたものを見つける。 	<p>関 形や大きさが同じ図形に関心をもち、合同な図形の調べ方を工夫して考えようとしている。</p> <p>知 裏返してぴったり重なる場合も含めて、合同の意味を理解している。</p>
2	頂点、辺、角について「対応する」の意味を知り、合同な図形の性質について理解する。	<ul style="list-style-type: none"> 合同な図形について、重なり合う頂点、辺、角を調べる。 用語「対応する」の意味を知る。 合同な図形の性質をまとめ、それを用いて合同かどうかを判別する。 	<p>関 対応する辺の長さや角の大きさに着目して、合同な図形の性質について考え、説明している。</p> <p>知 合同な図形は対応する辺の長さ、角の大きさが等しいことを理解している。</p>
3	平行四辺形やひし方、長方形、正方形を対角線で分割してできた三角形は合同であることを理解する。	<ul style="list-style-type: none"> 台形や平行四辺形など、これまで学習した四角形を一本の対角線で分割すると、どのような三角形ができるか考える。 分割してできた三角形について、合同であるかどうか調べる。 同じようにして、2本の対角線で分割したときの三角形について、合同であるかどうか調べる。 	<p>知 平行四辺形やひし形、長方形、正方形は、対角線のひき形に関係なく、分割してできた三角形は合同であることを理解している。</p>
4	合同な三角形をかくのに、すべての構成要素を調べる必要がないことを理解し、合同な三角形をかくことができる。	<ul style="list-style-type: none"> 合同な三角形のかき方を考える。 いくつかの辺や角を使って作図をしたかを整理して、全ての辺や角を使わなくても合同な三角形がかけられることをおさえる。 	<p>考 合同な三角形のかき方を考え、どの辺の長さや角の大きさを使ってかいたかを説明している。</p> <p>技 合同な三角形をかくことができる。</p> <p>知 すべての構成要素を使わなくても合同な三角形をかけることを理解している。</p>
5		<ul style="list-style-type: none"> 合同な三角形を作図するための要素について考え、その要素が3つ（二辺夾角、二角夾辺、三辺）あることを理解する。 二辺夾角、二角夾辺、三辺のかき方で合同な三角形をかく。 	
6		<ul style="list-style-type: none"> 適用問題に取り組む。 	
7	三角形との形と大きさが決まる要素の違いをおさえ、合同な平行四辺形のかき方を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> 合同な三角形のかき方を基に、合同な平行四辺形のかき方を考える。 三角形の場合と異なり、4つの辺の長さだけでは、形が決まらず、かけないことを知る。 	<p>考 合同な三角形のかき方を考え、どの辺の長さや角の大きさを使ってかいたかを説明している。</p> <p>技 合同な三角形をかくことができる。</p> <p>知 すべての構成要素を使わなくても合同な三角形をかけることを理解している。</p>
8	学習内容を適用して問題を解決する。	<ul style="list-style-type: none"> 「力をつけるもんだい」に取り組む。 	<p>技 学習内容を適用して、問題を解決することができる。</p>
9	学習内容の定着を確認し、理解を確実にする。	<ul style="list-style-type: none"> 「しあげ」に取り組む。 	<p>知 基本的な学習内容を身につけている。</p>

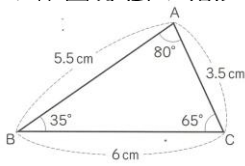
5 本時の学習（4 / 9 時間）

(1) ねらい

- ・ 合同な三角形を作図することができる。
- ・ 作図のために必要な要素について考え、全ての構成要素を使わなくても合同な三角形をかくことができることを理解する。

【 思考力・判断力・表現力 主体性 多様な考え 自律性・社会性 対応力(場・相手) 思いやりの心 思考の深まり 】

(2) 展開

主な学習活動	◇指導上の留意点・支援 ☆評価
<p>1 本時の問題と課題を提示する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>問題 三角形 ABC と合同な三角形をかきましょう。</p> <p>課題 合同な三角形をかくために必要な辺や角の組み合わせについて考えよう。</p> </div>	
<p>2 ①小集団（ペア）での話し合い</p> <p>合同な三角形の作図方法の見通しをもつ。</p> 	<p>◇小集団で話し合うことで、全員がこれから行う作図方法の見通しをもつようにする。</p> <p>◇ペアでの検討ツールとして、3つの辺、3つの角を表したマグネットを配布し、辺と角を組み合わせながらどの辺や角を使って書くのかを考えるようにする。</p>
<p>3 合同な三角形を作図する。</p>	<p>◇どの部分を測って作図したかを意識付けさせるために、作図手順に番号を入れるようにする。</p> <p>◇作図が正確に出来たか自分たちで確認できるよう、三角形ABCを印刷したOHPシートを配布する。</p> <p>☆三角形ABCと合同な三角形をかくことができる。 (観察・ノート)</p>
<p>4 ②小集団（3人）での話し合い</p> <p>合同な三角形をかくために必要な要素について考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>できるだけ簡単に合同な三角形をかくには、いくつの辺や角を測ればよいでしょうか。</p> </div>	<p>◇ペアでの話し合いとは違う児童同士で3人組をつくり、自分が作図に用いた要素を持ち寄ることで、全員が主体的に話し合いに参加する必要性を実感させる。</p> <p>◇作図をするために必要な要素について考える中で、全ての角や辺を測る必要がないことに気付かせる。</p>
<p>5 全体で作図方法を共有する。</p> <p>また、小集団で検討した合同な三角形をかくために必要な要素について各班の考えを発表する。</p>	<p>◇小集団での話し合いや友達の発表を通して、合同な三角形の作図の3つの要素のうちのいくつかに気付き、作図に必要な要素の見通しをもつようにする。</p> <p>☆作図に必要な要素について考え、全ての辺・角を測らなくてもよいことを理解する。(発言・ノート)</p>
<p>6 まとめ 学習感想をかく。</p>	<p>◇本時で分かったことや、次時に考えていきたいことをまとめるようにする。</p>
<p>7 次時の予告をする。</p>	<p>◇合同な三角形の作図の要素を過不足なく考えていくと共に、3つの角を測る場合や2辺と挟まない角を測る場合は合同な三角形を作図することができるのかどうか考えていくことを伝える。</p>

第6学年 道徳学習指導案

日 時 7月4日(火) 第6校時
学 級 第6学年1組 29名
指導者 川瀬 穰

1 主題名 自分を信じる強い心 (C 公正・公平、社会正義)

2 資料名 みんなの人権 (出典:みんなの道徳 学研)

3 主題設定の理由

(1)ねらいとする価値について

よりよい人間関係、社会の実現のためには正義を愛する心が欠かせない。不正や不公平を許さない、断固とした気持ちを持ち、力を合わせて差別や偏見をなくそうとする努力が、現代の学校社会において特に重要である。本時を通して、誰に対しても、どんな状況下でも差別や偏見を認めず、社会正義の実現に努めようとする気持ちを育てることができるようになりたい。

この時期の児童は、友達の目が気になりはじめ、服装や体つき、言動を見て、嫌な目で相手を見たり、無視したりすることがある。また相手の不公平な態度には、かなり厳しく反応する割に、自分の言動には公平さを見失ってしまう傾向にある。自分の心の中の矛盾や葛藤に気付くことができるようにし、公正・公平なもの見方・考え方が人間の生き方の大切な価値となることを考えさせていきたい。

(2)資料について

本資料は、親友をいじめる側になった中学生の作文である。主人公の心の葛藤を自分の言動と重ね合わせて考えられるようにし、いじめや差別の問題を自分の課題として捉えられるようにしたい。

4 研究主題との関連

(1)目指す児童像 (道徳の目標及び研究主題より)

【心】物事を多面的・多角的に考え、生き方についての考えを深める子

【心】自己を見つめ、自己の考えを信じて、よりよく生きていく子

(2)研究主題(児童像)に迫るための手だて

【心】物事を多面的・多角的に考え、生き方についての考えを深められるようにするために

○「考えるに足る発問」「議論に値する発問」での小集団活動の工夫

多様な思い、考えが出てくると予想される発問の場面で、一人一人の考えを小集団の中で交流し合い、多様な考えに触れることができるようにする。友達の考えを受け入れることで、自己の考えを見つめ直し、生き方についての考えを深めることができるようにする。

○心情円の活用

心情円を使うことで心の葛藤を視覚的に表現することができるようにし、登場人物の心情についてより深く考えることができるようにする。

【心】自己を見つめ、自己の考えを信じて、よりよく生きていくことができるようにするために

○学習カードの活用

登場人物や自己の心情について考えたことを記入する学習カードを作成することで、じっくりと自分の考えまとめられる場面を設定した。また、毎時間ためていくことで、中期的、長期的な心の変容も実感できるようにした。

5 本時の学習

(1)ねらい

誰に対しても、どんな状況でも差別や偏見を認めず、断固とした気持ちをもって行動できる強い心を育てる。

【 思考力・判断力・表現力 主体性 多様な考え 自律性・社会性 対応力(場・相手) 思いやりの心 思考の深まり 】

(2)展開

学習活動 (○主な発問 ・ 予想される児童の反応)	◇指導上の留意点・支援 ☆評価
1 友達にしてもらって嬉しかったことやされて嫌だったことについて話し合う。	◇事前にアンケート調査を行い、状況を把握しておくとともに、個人名が出ないように十分に配慮する。
2 資料「みんなの人権」を読み、「私」の気持ちを中心に話し合う。 ○いじめのリーダー二人の手招きを受け、「き、嫌いだよお～」言ってしまった私は、どんな気持ちだったのだろう。 ・本当は嫌だ。やってはいけない。 ・Aさんをかばったら自分がどうなるか。 ・みんなから無視されてしまう。 ○いじめる側に入り、さらにひどいことをしてしまった「私」はどんな気持ちだったのだろう。 ・本当は悪口なんて言いたくない。 ・心がどんどん汚れていく。 ・Aさんだって私の悪口を言っている。 ○いじめのことを家族に話し、A子さんにメールを送った「私」はどんな気持ちだったのだろう。 ・どんな理由があってもやってはいけないことだった。 ・今さら取り返しがつかないことだとわかった。ごめんなさい。	◇いじめる側に入るきっかけとなった言動に着目することで、私の心の葛藤に十分に目を向けられるように配慮する。 ◇いけないことだとは分かっている、自分の心を正当化するために理由を見つけて、いじめを続けてしまう私の心に気付くことができるようにする。 ◇時間がたち、家族に打ち明けることで気持ちが少し楽になった私に対して、姉の涙、母の怒り、Aさんが味わった悲しみは消えるわけではないことを押さえる。自他共に様々な思いの入り混じった中でメールを送った私の心情を理解できるようにする。
3 人権について考える。(小集団) ○題名である「みんなの人権」とは、どのようなことだろう。 ・差別を受けずに生活する権利のこと。 ・自分と同じように友達も大切にすること。 ・どんなときにも認め合い、助け合う。 ○「みんなの人権」を守るために自分のできることはなんだろう。 ・どんなときでも正しい判断をして行動できるように努力する。 ・友達の声に流されず、自分の行動を自分の心で決める。 ・誰に対しても相手の気持ちを考えて行動する。	◇人は誰もが、日々の生活を楽しく過ごすことのできる権利があり、自分と同じように友達も大切な存在であることをそれぞれの考え方で理解できるようにする。 ◇小集団で話し合い、多様な意見を交わす中で、自己の考えを深めることができるようにする。 ◇分かっているけれども、時に実行に移せない人間の弱さにも触れ、その中でも自分で判断し、強い心をもって行動することの大切さを感じることができるようにする。 ☆誰に対してもどんな時にでも差別や偏見を認めずに強い心をもって行動しようという気持ちをもつ。
4 教師の説話を聞く。 ・差別や偏見に関する詩を読み、これからの生活についての気持ちを高める。	◇本時の価値を感じられる資料を提示することで、差別や偏見を認めないという自分の強い心を信じて、生活していこうという気持ちを高めることができるようにする。

御指導いただきたいこと

①展開（前段）この資料での話し合いの中心発問

◆ 2つ目

いけないこと、相手を傷つけていると分かっているにもかかわらず、自分の気持ちを軽くするため、行動を正当化するために、いじめる側にどんどん深く陥っていく心情。

◆ 3つ目

いじめていた状況を告白し、姉のなく姿、母の怒る姿を見て、いじめの重大さに気付き、Aちゃんに謝りのメールを送る心情。

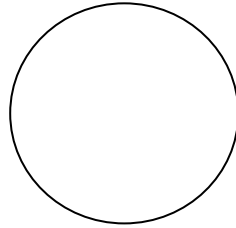
②展開（後段）みんなの人権

・はじめから差別や偏見に関する人権ということを押さえた上で話し合いを進めた方がよいのか。

（この資料の話し合いを深めていけば、「題名のみんなの人権とは」との発問で、差別や偏見に関する言葉は子ども達から出てくると思われる。ある程度、多様な考えがあった方が小集団で話し合う必要性やよさが出てくるように思われる。）

③心情円の活用

・展開（前段）1つ目と2つ目の発問で活用する。いじめる側に立ってもよいという思いが心の中にどれだけあるのかを表すようにしたい。



④まとめ

パターン1

「言うは流れる水のごとし 言われるは刻まれる石のごとし」

パターン2

わたしたちの道徳 P 1 3 5 「いじめている君へ」（千住明）

第6学年 社会科学学習指導案

日時 7月4日(火)第6校時
学級 第6学年2組 30名
指導者 鈴木 可奈子

1 小単元名 「全国統一への動き」

2 小単元の目標

戦国の世の中が統一されていく様子に関心を持ち、織田信長・豊臣秀吉・徳川家康の3人の武将によるはたらきを調べ、全国統一に向けて果たした役割について考えることができるようにする。

3 小単元について

本小単元は、学習指導要領第6学年の内容(1)のオを受けて設定されている。戦国大名の群雄割拠の状態から、豊臣秀吉が全国統一した後、江戸幕府が政治を行った時代に至るまでの時期のうち、キリスト教の伝来、織田・豊臣の天下統一、江戸幕府のはじまりを取り上げ、具体的に調べることを通して、戦国の世が統一され、身分制度が確立し、武士による政治が安定したことがわかるようにすることをねらいとしている。

4 研究主題との関連

(1) 目指す児童像(社会科の目標及び研究主題より)

- 【心】友達との関わり合いの中で、基礎的資料を効果的に活用し、社会的事象の意味をより広い視野から考える子ども
- 【心】友達との関わり合いの中で、調べたことや考えたことをよりよく表現しようとする子

(2) 研究主題(児童像)に迫るための手だて

【心】友達との関わり合いの中で、基礎的資料を効果的に活用し、社会的事象の意味をより広い視野から考えられるようにするために

○小集団活動の活用

4名程度の小集団を組むことによる主な効果は、次のようなものだと考える。

- ・課題解決や自分の考えに一人一人の責任感が生まれる。→主体的な学び 資料の効果的な活用
- ・多様な考えに出合える。→対話的な学び 深い学び より広い視野での思考
- ・自分の考えを遠慮なく発信できる。→主体的な学び

そのために、児童が自分の考えを発信し、互いの言葉を受け止め合い、対話しながら集団や個人の考えを深められる小集団学習を場面に応じて、手だてを講じ、適切に取り入れることで、児童は協働的な学びのよさを感じられると考える。

○資料提示の工夫(小集団活動の活性化のために)

児童が空論のような話し合いにならないよう、資料を基にして比較・関連付けたり、総合したりしながら、社会的事象の特色や意味を考えられるようにする。

そのために、教材構造図を基に、指導計画や学習課題に応じて、必要とされる資料を精選、整理することと、提示の仕方を工夫することを行う。それにより、児童が事実の理解を深めたり、印象を深めたり、課題に対する意欲を高めたり、自分の考えをもったり、深めたりできる根拠となる。また、小集団活用での共通の土台ともなり、学習課題から逸れずに、話し合いを進められるとも考える。

【心】友達との関わり合いの中で、調べたことや考えたことをよりよく表現できるようにするために

○思考ツールの活用(小集団活動の活性化のために)

児童が自分の考えを発信し、対話しながら集団や個人の考えを深められる協働的な学びのよさ感じるからこそ、児童は自分の調べたことや考えたことをよりよく表現したいと考える。

そのために、学習課題を明確にしたり、話し合いの流れ(思考)を整理して分析したりすることができる思考ツールとして、本時では「ピラミッドチャート」を提示した。それにより、事象同士を比較したり、関連付けたり、分類したりするなど、思考の整理や流れを明確にでき、話し合いが逸れずに活性化されると考えた。

○活動方法の工夫(小集団活動の活性化のために)

児童の課題意識を高め、能動的、自発的な思考を促すことで、児童は自分の調べたことや考えたことをもっと友達にわかってもらいたいという思いや、友達はどのような考えをもっているのだろうかという思いをもつ。

そのために、予想を考える、業績カードのプラス面、マイナス面を考える、ピラミッドチャートで考える、通知表を書くなどの活動を取り入れた。それにより、児童が楽しく柔軟な思考をすることができ、自分の考えをよりよく表現できると考える。

(1 / 7時間)

(1) ねらい

長篠合戦図と江戸図屏風の様子を比較し、戦国時代の時代背景を理解することを通して、全国統一がどのように進められていくのかについて、学習問題を立てることができる。

【 **思考力・判断力・表現力** 主体性 **多様な考え** 自主性・社会性 対応力(場・相手) 思いやりの心 思考の深まり 】

(2) 展開

	○主な学習活動 ・ 予想される児童の反応	◇支援 □留意点	☆評価 *資料
つかむ	<p>○長篠合戦図を読み取り、気付いたことを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大勢の人が戦っている。 ・右側の方は馬に乗っている人が多い。 ・左側の方は鉄砲を持って戦っている人が多い。 ・川を挟んで戦っている。 ・旗を持っている人が大勢いる。 	<p>□長篠の戦いが起こった場所が武田、徳川、織田の領地が隣接する場所であることを地図で確認する。</p> <p>□読み取らせたい視点を明らかにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3人の武将と武田軍の位置 ・戦い方の違い 	*長篠合戦図
	<p>○本時の学習課題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>戦国の世の中は、どのような様子だったのだろうか。</p> </div>	<p>◇兵の数、武器の違いに着目させる。</p>	
調べる	<p>○教科書や、資料集で戦国の世の中になった経緯や、当時の様子を調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幕府の守護大名の争いから、全国に戦いが広がった。 ・勢力図を見ると、たくさんの戦国大名に領地が分かれている。 ・農民は、武器を持って一揆を起こしていた。 ・鉄砲がポルトガルから伝わってきた。 	<p>□幕府、戦国大名、農民の様子から調べる。</p>	<p>*応仁の乱絵図</p> <p>*主な戦国大名の勢力範囲</p> <p>*団結する農民と一揆(資料集)</p>
	<p>○江戸図屏風を読み取り、その後安定した世の中になったことを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・戦いが無い。 ・町が賑わっている。 ・武士も、町人もいる。 ・外国の人みたいな人もいる。 	<p>□長篠合戦図と江戸図屏風を対比させて貼り、変化が分かりやすくする。</p> <p>◇建物や人々の様子に着目させる。</p>	<p>【意・関・態】</p> <p>3人の武将の全国統一への働きに関心をもち、意欲的に調べ、考え、表現しようとする。(発言・ノート)</p>
まとめる	<p>○長篠合戦図と江戸図屏風の違いから、学習問題をつくる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>学習問題 戦国の世の中から、どのようにして安定した世の中になったのだろうか。</p> </div>		
	<p>○次時の学習を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次は、どうしたら、安定した世の中になるかを考え、学習計画を立てる。 		<p>【思・判・表】</p> <p>全国統一がどのように進められていくのかについて学習問題を考え、表現している。(発言・ノート)</p>

(2 / 7 時間)

(1) ねらい

資料やこれまでの学習を基に、学習問題に対する予想を立てることを通して、学習問題を解決に導くための学習計画を立てることができる。

【 思考力・判断力・表現力 主体性 多様な考え 自主性・社会性 対応力(場・相手) 思いやりの心 思考の深まり 】

(2) 展開

	○主な学習活動 ・ 予想される児童の反応	◇支援 □留意点	☆評価 *資料
つかむ	<p>○前時の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 応仁の乱をきっかけに、大名同士が戦いをしていた。 ・ 農民が一揆を起こしていた。 ・ 安定した世の中に変化した。 ・ 「戦国の世の中から、どのようにして安定した世の中になったのだろうか。」という学習問題をつくった。 <p>○本時の学習課題をつかむ。</p>	<p>□資料と前時のノートで振り返る。</p>	<p>* 応仁の乱絵図 * 主な戦国大名の勢力範囲 * 団結する農民と一揆 (資料集)</p>
<p>どのようにして戦国の世の中から、安定した世の中になったのかを予想し、学習計画を立てよう。</p>			
調べる	<p>○これまでの学習や前時の資料をもとに、予想を考え、話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 長篠の合戦で勝った信長や秀吉、家康が領地をどんどん広げた。 ・ 戦いで勝って、どんどん領地を広げた。 ・ 鉄砲を使って戦いで強くなった。 ・ 鉄砲を買うお金を増やすため、儲かる方策を考えた。 ・ 農民が付いてくるように、農民が喜ぶ政策を立てた。 ・ 一揆を起こす農民を押さえる政策を立てた。 ・ 外国の人がいたから、外国から新しい文化を取り入れた。 ・ 応仁の乱は跡継ぎ問題が発端だったから、跡継ぎでもめないようにした。 ・ 町をきれいに整備した。 ・ 宗教の力で一つにまとめた。 (一人→小集団→全体) <p>○出た予想を観点ごとにまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 〈戦い〉 〈人々の暮らし〉 〈外国との関わり〉 〈建物・町〉 にまとめられる。 	<p>□資料から考えられること、これまでの歴史学習から考えられることを確認し、根拠としながら予想できるようにする。</p> <p>◇安定した時代にするために、資料から考えられる課題は何かを考え、それを解決する方法を予想してみるように促す。</p> <p>◇これまで学習した時代を振り返り、どのような取組があったかを確認させる。</p>	<p>* 応仁の乱絵図 * 主な戦国大名の勢力範囲 * 団結する農民と一揆 (資料集)</p> <p>【意・関・態】 3人の武将の全国統一への働きに関心をもち、意欲的に調べ、考え、表現しようとする。 (発言・ノート)</p>
まとめる	<p>○学習計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 信長、秀吉、家康がどのようなことをしたのか、観点ごとに調べていく。 <p>○次時の予告をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ まずは、織田信長がどのようなことをしたのか調べていく。 	<p>□主な3人の武将について知らせる。</p>	<p>【思・判・表】 全国統一がどのように進められていくのかについて学習問題を考え、表現している。 (発言・ノート)</p>

(5 / 7 時間)

(1) ねらい

【思考・判断・表現】豊臣秀吉は、全国統一を果たし、検地や刀狩などをして社会の仕組みを整えていったことが分かり、そのはたらきの意図や願いを考える。

【**思考力・判断力・表現力** 主体性 **多様な考え** 自主性・社会性 対応力(場・相手) 思いやりの心 思考の深まり】

(2) 展開

	○主な学習活動 ・ 予想される児童の反応	◇支援 □留意点	☆評価 *資料
つかむ	<p>○本時の学習課題をつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 前は信長を調べた。 ・ 今日調べたことを業績カードにまとめる。 	<p>□前時の確認をする。</p>	<p>* 秀吉の肖像画</p>
<p>豊臣秀吉は、どのようにして全国統一を進めたのだろうか。</p>			
調べる	<p>○豊臣秀吉がどのようにして全国統一を進めようとしていたのかを調べる。 (一人調べ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 〈戦い〉では、明智光秀を倒した。 ・ 〈人々の暮らし〉では、検地や刀狩がある。 ・ 〈外国との関係〉では、2回も朝鮮に出兵している。 ・ 〈城〉では、大阪城を造っている。 	<p>□織田信長の調べ学習の際に、業績が、〈戦い〉〈人々の暮らし〉〈外国との関係〉〈城〉に分けられたことを確認する。</p> <p>□調べたことをノートにまとめさせる。</p> <p>◇まずは、業績を全て読み取り、後で分類すればよいことを促す。</p>	<p>* 秀吉の勢力図</p> <p>* 年表</p>
	<p>○秀吉の業績の方法や結果やそれに対する当時の人々の思いについて、調べたことをもとに考え、話し合う。</p> <p>(業績カード)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; width: 50px;">検地</div> <div style="text-align: center; margin-top: 5px;">↓</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">【結果】</div> </div> <p>【方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 全国に家来を派遣。 ・ 村ごとに検地を行い、田畑の面積を測る。 ・ ものさしの長さや、年貢米を量る升の大きさを統一。 ・ 土地の良し悪しや収穫量、耕作している人の名前を記録。 <p>【結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 耕作者は田畑を耕す権利がもらえる。(+) <ul style="list-style-type: none"> ・ 年貢をしっかりと取ることができる。(+) ・ うそやごまかしが利かない。(－) 	<p>□3～4人の小集団で話し合いを行う。</p> <p>□業績カードの活用をし、一目見てその業績について分かるようにする。</p> <p>□【結果】での人々の立場の違いによるプラス面、マイナス面を考えることにより、秀吉の願いやその時の時代背景にも気付けるようにする。</p> <p>◇政策に対するの思いを考える視点人物(当時の人々)の確認をする。</p> <p>◇各班のカードを見られる、情報交換の時間をとる。</p>	<p>* 検地の想像図</p> <p>* 刀狩令条文</p> <p>【観・技】 豊臣秀吉の意図や働きについて、必要な資料を活用して調べ、まとめている。 (カード・ノート)</p>
まとめる	<p>○それぞれの業績を提示資料をもとに、どのようなものであるのか確認しながら、秀吉の業績をまとめる。</p> <p>○学習計画を基に、次時の予告をする。</p>	<p>□発表を基に、黒板にもカードを貼り、全体を見通せるように7/7時間目に向けて武将の意図や願い、全国統一に果たした役割を考えられるようにする。</p>	

5 本時の学習（7 / 7 時間）

(1) ねらい

3人の武将の業績、意図や願い、政治の特徴を比較しながら、それぞれが全国統一に果たした役割について考え、表現している。

【**思考力・判断力・表現力** 主体性 **多様な考え** 自主性・社会性 対応力(場・相手) 思いやりの心 **思考の深まり**】

(2) 展開

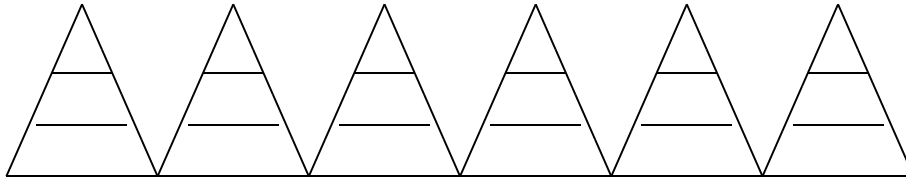
	○主な学習活動 ・ 予想される児童の反応	◇支援 □留意点	☆評価 *資料
つかむ 3分	<p>○前時までの振り返りをする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・戦国の世の中から、どのようにして安定した世の中になったのかを調べた。 ・3人の武将の業績をカードにまとめた。 <p>○本時の学習課題をつかむ。</p>	<p>◇黒板にもこれまでの調べ学習の様子をつくっておき、どのような目的で、これからどんな活動をするのかが見て分かるようにする。</p>	<p>*長篠合戦図 *江戸図屏風 *3人の肖像画</p>
	<p>全国統一へ向けて3人の武将が果たした役割を話し合い、3人の武将へ通知表を書こう。</p>		
	<ul style="list-style-type: none"> ・ピラミッドチャートで考えていく。 ・江戸図屏風はどのような世の中だったかを確認して、どのような役割を果たしたのかを考えるようにする。 	<p>□江戸図屏風から読み取った、安定した世の中の様子を確認し、影響力の大きさを考える判断基準とさせる。</p>	
考える 15分	<p>○信長・秀吉・家康の業績カードを比較、分類しながら、それぞれの武将の意図や願い、全国統一に果たした役割を班で考える。</p> <p style="text-align: center;">(小集団活動)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・信長は、新しい政策を取り入れて、武力を強くしたり、経済を発展させたりして、全国統一の基盤をつかった。 ・秀吉は、周りの力を押さえ、身分をしっかりと区別し、主従関係をはっきりさせた。 ・家康は、大名を徹底的に管理し、幕府の中心となる江戸の町をつくり、徳川を頂点とする体制をつくり上げた。 	<p>□ピラミッドチャートを活用する。</p> <div style="text-align: center;"> </div> <p>◇業績の結果を考え、類似しているものを分類することで武将の意図や願いを考えることを促す。 ◇武将の意図や願いを江戸図屏風の読み取りに照らし合わせ、「全国統一に果たした役割」という観点で見直し、ピラミッドの頂点を考えることを促す。</p>	<p>【思・判・表】 3人の武将の業績について調べたことを比較したり、関連付けたりすることで、3人の武将の抱えた戦国の世の課題、意図や願い、全国統一に果たした役割を考え、表現している。 (話し合い)</p>
12分	<p>○結果を発表し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの業績、意図や願いが全国統一を果たすことへとつながっていき、安定した世の中をもたらしている。 	<p>□それぞれの武将ごとに発表させる。</p>	
まとめる 10分	<p>○3人の武将へ通知表を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・信長さん。あなたは、新しいことを取り入れるのが上手ですね。そのため、これまでなかった楽市楽座を行い、商業を活発にし、経済を発展させました。 ・秀吉さん。あなたは、検地で農民に田畑を耕す権利を与え、年貢を正しく取れるようにし、決まりや身分をはっきりさせたところが、安定した世の中へと導きました。 ・家康さん。あなたは、関ヶ原の戦いで勝った後すぐ、征夷大將軍となり、幕府を開き、江戸の町を整備し、家督を息子に譲るなど、安定した江戸時代の基盤を築きました。 	<p>□3人の武将から、全国統一に果たした役割として一番評価したい一人を選んで書かせる。</p> <p>◇自分が一番評価したい武将を選び、どのようなところが全国統一に果たした役割として評価できるかを通知表形式で書くことを促す。</p>	<p>【知・理】 戦国の世が統一され、安定した政治の基礎がつけられたことを3人の武将の業績、意図や願い、全国統一に果たした役割などから理解している。 (ノート)</p>
5分	<p>○学習問題に対するまとめをする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>3人の武将は、その時代に合わせて知恵を働かせ、安定した世の中をつくるために全国統一を目指し、様々な業績を残してきた。</p> </div>	<p>□家康が開いた江戸時代の長さを年表で確認する。</p>	<p>*年表</p>

【7 / 7 板書計画】

それぞれの武将の意図や願い、全国統一に果たした役割を考えよう。



長篠の
合戦図



江戸図
屏風絵

織田
信長

豊臣
秀吉

徳川
家康

3人の武将は、その時代に合わせて知恵を働かせ、安定した世の中をつくるために全国統一を目指し、様々な業績を残してきた。

1 評価規準

社会的事象への関心・意欲・態度 【つかむ・まとめる】	① 3人の武将の全国統一への働きに関心を持ち、意欲的に調べ、考え、表現しようとする。
社会的な思考・判断・表現 【つかむ・まとめる】	① 全国統一がどのように進められていくのかについて学習問題を考え、表現している。 ② 3人の武将の業績について調べたことを比較したり、関連付けたりすることで、3人の武将の抱えた戦国の世の課題、意図や願い、全国統一に果たした役割を考え、表現している。
観察・資料活用の技能 【調べる】	① 3人の武将の意図や働きについて、必要な資料を活用して調べ、まとめている。
社会的事象についての知識・理解 【調べる・まとめる】	① 3人の武将の業績と、全国統一に果たした役割を理解している。 ② 戦国の世が統一され、安定した政治の基礎がつけられたことを3人の武将の業績、意図や願い、全国統一に果たした役割などから理解している。

2 教材構造図





【育てたい子どもの姿】

3人の武将の業績を調べ、社会的事象の意味、意図や願いをより広い視野から考え、表現しようとするを通して、戦国の世の中から安定した世の中へと変化した背景について理解するとともに、我が国の歴史や先人の働きについて関心を深める子ども

2 指導・評価計画

	時間	学習のねらい	○主な学習活動	□指導上の留意点 ☆主な評価の観点と評価規準 *資料
つかむ	1	長篠合戦図から、戦国時代の様子を調べ、時代背景を理解して、全国統一がどのように進められていくのかについて関心をもつ。	○長篠合戦図を描いた屏風絵から、戦国時代の戦いの様子について、分かったことや気付いたことを発表し合う。 ○教科書や資料集から、戦国の世の中になった経緯や当時の様子を調べる。	*長篠合戦図 *応仁の乱絵図 *主な戦国大名とその領地
	2	江戸図屏風の城周辺の様子から、戦国の世の中から安定した世の中へ変化してきたことを調べ、長篠合戦図と比較することを通して、この間、誰のどのような取組によって安定した世の中になったのかについての学習問題をつくり、学習計画を立てる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">戦国の世の中から、どのようにして安定した世の中になったのだろうか。</div>	○江戸図屏風の城周辺の様子について、分かったことや気付いたことを発表し合う。 ○長篠合戦図と比較し、分かったことや気付いたこと、疑問に思ったことを出し合い、学習問題を立てる。 ○どのようにして戦国の世の中から、安定した世の中になったのかをこれまでの学習や前時の資料をもとに、予想を考え、話し合う。 ○予想から学習計画を立てる。	*長篠合戦図 *江戸図屏風 *3人の肖像画 *年表
調べる	3	織田信長は、どのようにして全国統一を目指したのかが分かり、その働きの意図や願い、人々の思いを考える。	○勢力図や年表から、20年ほどで広い範囲に勢力を広げたことを読み取る。 ○全国統一を目指して、どのようなことを行ったのかを調べる。	*織田信長肖像画 *織田信長勢力拡大図 *年表
	4		○信長の業績カードに、その業績の方法と結果、全国統一につながっているプラス面、マイナス面を考えて書く。	*安土城と城下町 *ザビエル肖像画
	5	豊臣秀吉は、どのようにして全国統一を果たしていったのかが分かり、その働きの意図や願い、人々の思いを考える。	○勢力図や年表から、全国統一に向けてどのようなことを行ったのかを調べる。 ○秀吉の業績カードに、その業績の方法と結果、全国統一につながって	*豊臣秀吉肖像画 *豊臣秀吉勢力拡大図 *年表 *検地想像図

			るプラス面、マイナス面を考えて書く。	*年貢升、検地尺 *刀狩令条文
6	徳川家康は、どのようにして全国統一を果たしたのかが分かり、その働きの意図や願い、人々の思いを考える。		○全国統一を目指して、どのようなことを行ったのかを調べる。 ○家康の業績カードに、その業績の方法と結果、全国統一につながっているプラス面、マイナス面を考えて書く。	*徳川家康肖像画 *関ヶ原の合戦屏風 *江戸図屏風 *江戸の町の広がり
まとめ る 本 時	3人の武将の業績を振り返り、比較することを通して、戦国の世の中を安定した世の中にしたそれぞれの役割を考えて表現する。		○信長・秀吉・家康の業績カードを比較、分類しながら、それぞれの武将の意図や願い、全国統一に果たした役割を班で考える。 (小集団活動) ○3人の武将から一人を選び、安定した世の中へと導いた業績を通知表に書いて表現する。	*長篠合戦図 *江戸図屏風 *3人の肖像画

第6学年 体育科学習指導案

日 時 7月4日(火) 第5校時
学 級 第6学年3組 30名
指 導 者 中嶋 友晴
指 導 補 助 員 岸谷 紀久

1 単元名 「水泳」

2 単元の目標

技 能	・自己の能力に適した課題をもち、クロール及び平泳ぎの楽しさや喜びに触れながら、技能を身に付け、手と足の動きに呼吸を合わせながら、続けて長く泳ぐことができるようにする。
態 度	・運動に進んで取り組み、友達と助言し合って練習したり、水泳の心得や約束を守って安全に気を配ったりすることができるようにする。 ・友達と協力し、教え合いながら楽しく水泳の学習ができるようにする。
判 思 断 考	・自己の能力に適した課題を設定し、解決の仕方を工夫することができるようにする。 ・泳法のポイントや互いの泳ぎを見合う観点を知り、友達と助言し合って練習を工夫することができるようにする。

3 運動の特性

- 水泳は水を媒体とした運動であり、水の中で運動するという点が各種の運動と本質的に異なる運動である。
- 水泳は、「クロール」「平泳ぎ」で内容を構成している。これらの運動は、心地よく泳いだり、泳ぐ距離を伸ばしたりすることに楽しさや喜びを味わうことができる運動である。
- できなかったことができるようになった時や、できることがよりできるようになった時に、楽しさや喜びを味わうことができる運動である。
- 仲間との競争や自己の能力に適した課題に取り組むことによって、楽しさや喜びを味わうことができる運動である。
- 一人一人の児童が自己の能力に適した課題をもち、練習を工夫し、互いに協力して学習を進めながら、水泳の楽しさを味わうことができる運動である。

4 研究主題との関連

(1) 体育科で目指す児童像

【心】 友達との関わりの中で、お互いに高まろうと主体的に活動する子 【体】 運動の特性を理解し、自分の能力に適した課題をもち、進んで運動する子

(2) 研究主題（児童像）に迫るための手立て

【心】 関わりの中で、お互いに高まろうと主体的に活動できるようにするために

○学び合いのできる小集団学習の工夫

3人の泳力が異質の小集団を活用することで、自己の課題やよさを知るとともに、友達の泳ぎから技能ポイントを発見し、自己の泳ぎに生かせるようにする。泳力が十分身に付いている児童は助言をすることで技能のポイントを明確に知ることができる。泳力が概ね身に付いていたり、初歩的な泳ぎの状態の児童は、泳ぎの形等を見て学ぶ機会としたり、ストローク数を数えたりするなど、お互いの課題やよさを認め合える環境をつくる。

このような活動を毎時間取り入れることで、小集団の絆を深め、自己の能力に適した課題をもち、自己に適した課題解決方法を選択できる能力を育むことができると考える。

【体】 自分の能力に適した課題をもち、進んで運動できるようにするために

○運動量を確保するための学習過程や場の工夫

全体的水慣れを短くし、今もっている力で楽しむリラクゼーションを意識したりラックス水泳を単元の終了まで毎時間行う。また、プールの横を使って繰り返す行うことで、常に体を動かすことができ、待ち時間も少なくなる。

○学習ノートの活用

学習ノートを取り入れることによって、児童は自分のめあてを意識すると共に、常に振り返ることができる。(個人内評価) これは、学習を進める過程で「自分のめあて」や「学習の場の選択」が適切であるか否かを自分で判断して、よりよい学習を進めていこうとする積極的な意識や、自らめあてに向かって努力しているという満足感や自己肯定感などを得ることにつながる。

○アドバイスカードの活用

児童の学習に対する意欲や学習効果をより高めるためには、わかりやすく、児童の課題にそったアドバイスが必要である。そこで、アドバイスの例を作成し活用することが有効であると考えた。

また、「何が課題か」を伝えるために、泳ぎの様子に応じたアドバイスの例を示し、具体的な内容にした。

5 本時の学習（6 / 10時間）

(1) ねらい

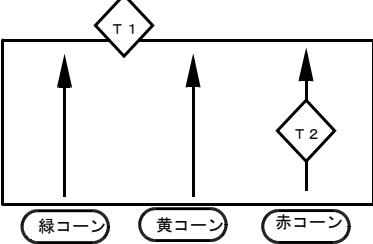
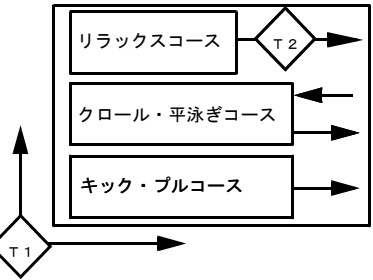
【技能】 自己の課題に応じてクロールや平泳ぎの技能を身に付けることができる。

【態度】 進んで友達と助言し合いながら水泳に取り組む。

◎【思考・判断】 自分の課題について友達の助言を参考にし、意識して練習する。

【思考力・判断力・表現力】 主体性 多様な考え 自主性・社会性 **対応力(場・相手)** **思いやりの心** 思考の深まり】

(2) 展開

主な学習活動	○支援 ●評価	教師の動き																								
<p>1 準備運動をする シャワーを浴び挨拶をしてバディーで人数を確認する。</p> <p>めあて、本時の流れを確認する。</p> <p>2 水慣れをする。</p> <p>3 リラックス水泳</p> <table border="1" data-bbox="213 748 555 954"> <thead> <tr> <th>泳ぎ方</th> <th>緑</th> <th>黄</th> <th>赤</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>けのび</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>けのびからバタ足</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>クロール</td> <td>3</td> <td>2</td> <td></td> </tr> <tr> <td>平泳ぎ</td> <td>3</td> <td>2</td> <td></td> </tr> <tr> <td>初歩的な泳ぎ</td> <td></td> <td></td> <td>3</td> </tr> </tbody> </table>	泳ぎ方	緑	黄	赤	けのび	1	2	2	けのびからバタ足	2	2	2	クロール	3	2		平泳ぎ	3	2		初歩的な泳ぎ			3	<p>○児童の健康状態を確認しながら、手首、足首、首、関節系を中心に行う。</p> <p>○バディーでの確認では、しっかり声を出すよう指示し、人員の確認を適切に行う。</p> <p>○リーダーを中心に行うように指示し、活動内容を伝えたら素早</p> <p>○泳ぎ方のポイントをプールサイドや水中で適宜指導する。</p>	<p>T1 全体指導・準備運動</p> <p>T2 足洗い・腰洗い・シャワー</p> <p>T1 全体指導 緑・黄コーン指導</p> <p>T2 赤コーンを水中で指導。</p> 
泳ぎ方	緑	黄	赤																							
けのび	1	2	2																							
けのびからバタ足	2	2	2																							
クロール	3	2																								
平泳ぎ	3	2																								
初歩的な泳ぎ			3																							
<p>4 課題別学習をする。</p> <p>3人の小集団で見合いながら個人の課題に取り組む。</p> <p>■リラクスクース 目標：初歩的な泳ぎで25メートル泳ぎ切る。 クロールや平泳ぎの足や手の動きを身に付け、呼吸しながら泳ぐ。</p> <p>■キック・プルコース 目標：クロールと平泳ぎの動きを身に付け、2つの泳法で25メートル泳ぐ。</p> <p>■クロール・平泳ぎコース 目標：クロールと平泳ぎで、かき数を意識しながら伸びのある泳ぎで50メートル以上泳ぐ。発展的な課題として、長い距離を泳いだり、ターンの練習をしたりする。</p>	<p>○前時の学び合いや学習カードからよい学び合いを紹介し、助言の視点を示したり、意欲を高めたりできるような声かけをする。</p> <p>○3人の小集団で自分の課題を伝えてから泳ぐことを伝える。</p> <p>○友達の課題にそった助言をしている小集団を賞賛する</p> <p>○練習方法が本人の課題と合っていない場合は、他の練習方法を促す。</p> <p>●進んで友達と助言しあいながら意識して水泳に取り組んでいる。</p> <p>●自分の課題について友達からの助言を参考に取り組んでいる。</p> <p>●クロールや平泳ぎ、初歩的な泳ぎなど、自分の課題とする泳ぎのポイントを意識しながら泳いでいる。</p> <p>(学習カード・観察)</p>	<p>T1 全体指導 クロール平泳ぎコース指導 キック・プルコースを水中で指導</p> <p>T2 リラクスクースを水中で指導</p> 																								
<p>5 確かめの泳ぎをする。(1回)</p> <p>6 バディーで人数を確認する。</p> <p>7 整理運動をする。</p>	<p>○自己の課題や友達からもらった助言を意識しながら泳ぐよう伝える。</p> <p>○バディーでの確認では、しっかり声を出すよう指示し、人員の確認を適切に行う。</p> <p>○使った部位を中心にほぐす。</p>																									

回		1 ~ 4		5 ~ 10	
段階		つかむ		取り組む	
評価規準		視点	具体的なよさの現れ		
態 度	進んで水泳学習に取り組む、楽しさを追求したり、技能を高めたりしようとする。	関心欲	○リラックス水泳に意欲的に取り組もうとしている。 ○共通課題学習の課題に進んで取り組もうとしている。	○リラックス水泳に意欲的に取り組もうとしている。 ○自分の泳力を伸ばそうと練習に取り組もうとしている。	
	友達と協力し、助言し合いながら、楽しく学習しようとする。	協力	○協力してリラックス水泳に取り組もうとしている。 ○友達と声をかけ合い、自分の課題に取り組もうとしている。	○協力してリラックス水泳に取り組もうとしている。 ○3人の小集団で協力して、互いに助言し合いながら練習をしようとしている。	
	水泳のきまりや水泳の心得を守ろうとする。	公正安全	○安全に気を付けて、運動に取り組もうとしている。 ○きまりを守って運動に取り組もうとしている。	○安全に気を付けて、進んで運動に取り組もうとしている。 ○場の使い方や約束を守り、運動に取り組もうとしている。	
思 考 ・ 判 断	学習の進め方や泳法のポイントを知り、課題を選んで活動に取り組むことができるようにする。	工夫	○3人の小集団学習の進め方が分かり、自分の泳ぎの課題を見つけている。 ○泳ぎのポイントを自分の泳ぎに生かしている。	○自分の課題にそって、練習方法を選んで練習している。 ○課題を意識しながら練習や確かめをしている。	
	友達に助言したり、助言をもとに練習したりすることができるようにする。	気付き 学び合い	○泳ぎのポイントを知り、友達の水泳を見てできばえを伝えている。 ○友達の助言を参考に、自分の泳ぎの課題を見付けている。	○友達の泳ぎを見て、助言をしている。 ○めあてのできばえを確かめ合っている。	
	活動を振り返り、次のめあてにつなげることができるようにする。	振り返り	○共通課題の練習や友達の助言をもとに、自分の課題をつかんでいる。	○まとめの25m泳で、友達の助言を参考に自分の泳ぎを振り返っている。	

学習過程 (6年3組 体育 水泳)

		1	2・3・4		5・6・7・8			9・10
		つかむ			取り組む			
		小集団で見合い、つかむ			小集団で高め合う			自己で高める
学習内容		<ul style="list-style-type: none"> ・プール開きをする。 ・学習の約束を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・簡単な水慣れで水に親しむ。 ・プールの横を使っての水慣れの方法を知り、体を水に慣らす。 ・小集団で学び合いをすることに重点を置くことを知る。 		<ul style="list-style-type: none"> ・簡単な水慣れで水に親しむ。 ・プールの横を使っての水慣れの方法を知り、主体的に体を水に慣らす。 ・小集団での学び合いで明らかになった個人の課題に取り組むことに重点を置く。 			<ul style="list-style-type: none"> ・簡単な水慣れで水に親しむ。 ・小集団の学び合いで学んだことを確かめ、高めていくことに重点を置く。
		1 ○腰洗い・シャワー ○挨拶 ○人数確認(パディ) ○準備運動 ○めあての確認 ○本時の流れを知る。 2 ○簡単な水慣れ ・頭まで一度もぐる程度のもの						
学習活動の流れ	「オリエンテーション」	3 今もっている力で楽しむ 「リラックス水泳」 ①グループ(緑コーン): けのび×1 けのびからバタ足×2 クロール×3 平泳ぎ×3 ②グループ(黄コーン): けのび×2 けのびからバタ足×2 クロール×2 平泳ぎ×2 ③グループ(赤コーン): けのび×2 けのびからバタ足×2 初歩的な泳ぎ×3						
	4 共通課題で自己の課題をつかむ 共通課題学習	<ul style="list-style-type: none"> ・教師の指示する共通課題で、泳ぎのポイントや練習方法、3人の小集団での学び合いの仕方を学習する。 ・3人の小集団で、教師が設定した課題について互いに見合ったり、補助し合ったりしながら練習する。 ・アドバイスや学習カードをもとに自己の課題をつかむ。 			4 個人の課題に取り組む 課題別学習 <ul style="list-style-type: none"> ・3人の小集団で互いに見合いながら自己の課題を練習する。1人が泳ぎ、2人が見る。見る場所は、プールサイドや水中など適宜変化する。1人当たりの練習時間を決め、時間内は続けて練習する。(1人5分程度) ・3人の小集団での学び合い学習の仕方 「①めあてを伝える→②泳ぐ→③助言を伝える→④もう一度泳ぐ」 ・アドバイスカードの活用 			4 課題別練習をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・学び合いで知った自己の課題にあった練習をする。 【発展的な泳ぎ】 ・伸びのある泳ぎで距離を伸ばすことに挑戦する。 ・できるだけ少ないかき数で泳ぐことに挑戦する。
		1時	2時	3時	4時			
	グループ①	○クロール 足と手の動き	○平泳ぎ 足と手の動き	○面かぶり クロール 呼吸の練習	○面かぶり 平泳ぎ 呼吸の練習	リラックス コース	目標: 初歩的な泳ぎで25メートル泳ぎ切る。クロールや平泳ぎの足や手の動きを身に付け、呼吸しながら泳ぐ。	
	グループ②	○クロール 足と手の動き	○平泳ぎ 足と手の動き	○伸びのある クロール スタート	○伸びのある 平泳ぎ スタート	キック コース	目標: クロールと平泳ぎの動きを身に付け、2つの泳法で25メートル泳ぐ。	
					平泳ぎ コース	目標: クロールと平泳ぎで、伸びのある泳ぎで50メートル以上泳ぐ。発展的な課題として、長い距離を泳いだりする。		
	5 確かめ <ul style="list-style-type: none"> ・まとめの泳ぎとして、友達の助言や自己の課題を意識して1本泳ぐ。(観点: 自己の課題に対するできばえ) 							
	6 ○人数確認(パディ) ○整理運動 ○学習の振り返り ○挨拶 ○シャワー							